

1. 日時:2011年4月28日(木) 13:30~14:20

2. 場所:東京ステーションコンファレンス(東京都千代田区丸の内)

質問者A

Q:12年3月期のGP(売上総利益)率について、セグメントごとにどの様に見ているのでしょうか。

A:各セグメントとも、まずは11年3月期並みをベースに考えていますが、成長を優先しますので、市場を切り開くためのコスト増で、GP率もそれぞれ若干ずつ下がるの見方をしています。

Q:12年3月期は売上を伸ばす計画の一方で、利益の伸びが少ないと思いますが、11年3月期と同様に、成長のために一時的収益率悪化もあり、との考え方なのか。

A:そうです。11年3月期は、むしろ成長すべき部門が費用をかけずに伸び切れなかったと考えています。価格戦略を含め、先行投資を行って、成長にこだわるという考えです。成長すればその先に利益もついてくるのですから、今は、一時的に利益を抑えても成長を重視するという強い意志を持って経営にあたります。

Q:13年3月期に180億円の営業利益との中期目標だったと思いますが、12年3月期に110億円では、相当な乖離があると思います。どのように見たらよいのでしょうか。

A:中期目標は変えません。しかし、12年3月期については、震災による経済インパクトが読み切れないのも事実です。例えば、政府の予算も被災者支援以外の余裕がないかもしれません。従い、手の届く予想値として110億円の営業利益をおきました。M&Aなどの施策も打っていく考えですので、これらで中期目標を目指していきます。

質問者B

Q:11年3月期の売上実績について、予想との差が約220億円ですが、50億円が震災による期ズレとして、残り170億円はどのような要因によるのでしょうか。

A:企業ネットワークについては、サービス事業が伸ばせなかったのが主な要因です。布石は打ったので、12年3月期に成果に結びつけます。

キャリアネットワークでは、ハード保守と海外向けが落ちました。

社会インフラでは、地域情報化についてさらなる上積みや、消防・防災システム需要の前倒しなどを期待しましたが、そこまで行かなかったということです。

Q:3月の震災前後での事業環境の変化をどのように捉えていますか。新年度に利益率が下がる見込みである理由は、成長への費用投入だけでなく、震災の影響などもあるのではないですか。

A:短期的には影響はあります。しかし、中長期で見れば大きな影響はなく、経営方針を

変えるものではないと考えています。もし、予想を超える影響が出てくるようであれば、適時開示していきます。

Q: サプライチェーンの分断による影響や、逆に復興需要などもあると思いますが、これらも大きくないのでしょうか。

A: 当社に関しては、若干の調達の問題は残りますが、NEC の工場をはじめ復旧しているサプライヤーが多く、例えば、自動車メーカーに見られるような問題はなしに済んでいます。

一方、施工したシステムなどで津波の被害を受けたものもありますが、これらは逆にいつ復旧させる計画が出てくるのか見えません。したがって、復興需要は通信網中心というのが当面の見方ですが、大きく影響するようなものではないと考えています。

質問者C

Q: 11年3月期も成長を優先し、結果として達成できませんでした。布石を打っても結果までには時間がかかるのではないのでしょうか。

A: 当社のスピードがまだまだ不十分だったと認識しています。今日の説明会も、従来決算発表後から数日空けていたのを早めました。このように経営や事業全体の回転を早めていきます。投資もボトムアップでなく、トップ主導で行うことでスピードを上げます。このような取組みがお客様の判断をも早める鍵だと思います。当社視点で積上げによる提案ではなく、お客様が判断するために何が必要なのかという視点で提案すること、これこそVi60という経営改革のポイントでもあります。

Q: データセンターについて、震災を経てデータのバックアップ用などの需要増の期待がありますが、お客様の反応はいかがですか。

A: 問合せや引き合いは増えています。節電やBCPなどの観点でも需要が出ていますが、大切なのは、その勢いをいつ実際のビジネスとしてお客様の判断につなげていくかということで、ここが課題だと考えています。

震災によるものではありませんが、関西でデータセンター関連事業が活性化しています。当社からのメニューではなく、お客様に合わせてサービスを提案するという、ある意味泥臭いやり方が好評で、想定を上回る勢いで、事業が拡大しています。

以上